

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 修学院離宮からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・ 山麓の少し高台に位置するため、隣雲亭をはじめ庭園のいたるところから、市街地が遠望できる。
- ・ 近傍に規模の大きい建築物等は視認されない。



1-1 隣雲亭から北東への眺望
：遠方に煙突、岩倉木野の街並みが見える。



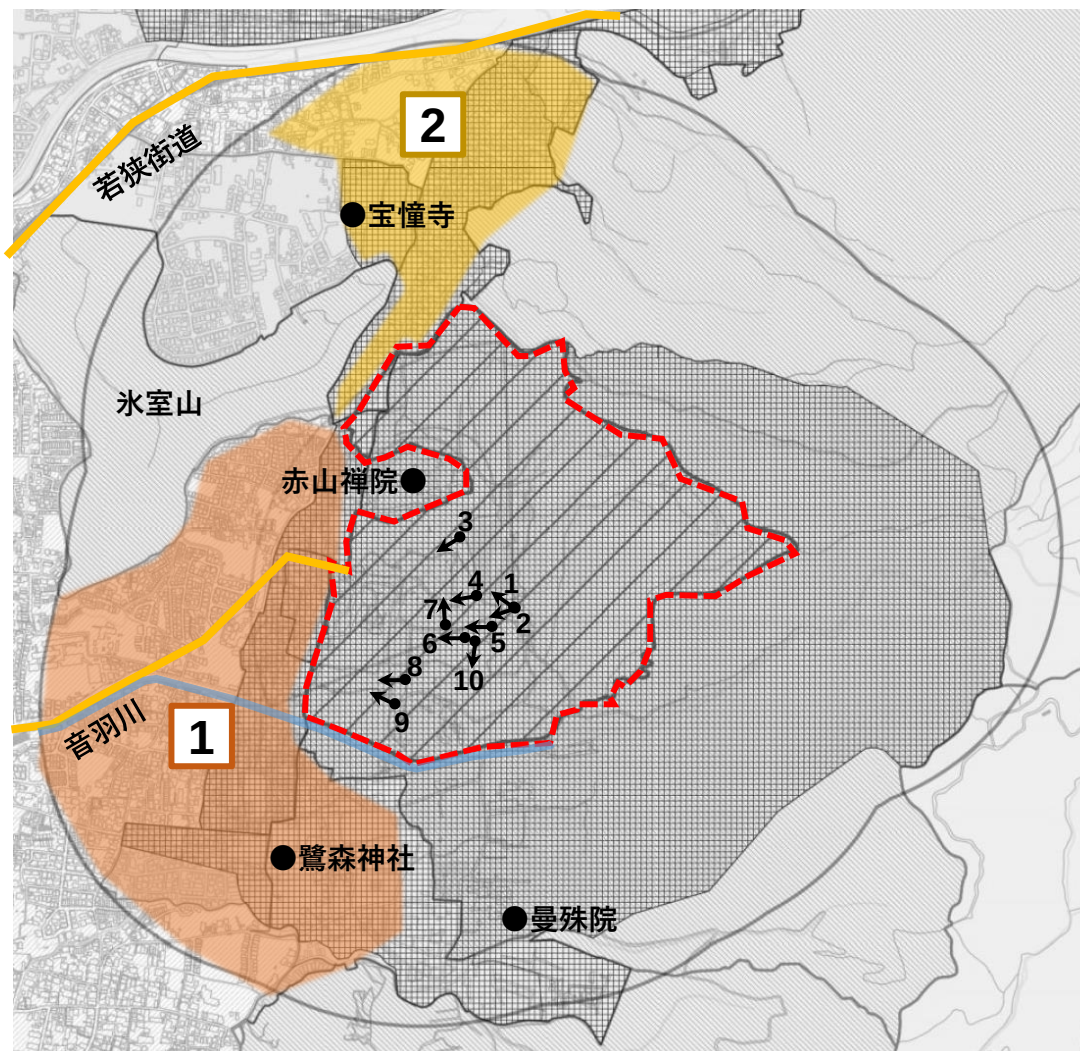
1-2 隣雲亭から西南西への眺望
：下鴨神社の緑の森が見える。



1-3 大刈込から南への眺望
：下離宮の素屋根が見え、近隣の集落も近くに見える。



1-4 大刈込から西への眺望
：遠景に松ヶ崎の集落が見える。



--- 視点場（境内）

— 主な通り



1-5 御成門前から西への眺望
：植栽により周辺の建築物は見えない。



1-6 松並木から西への眺望
：木立により周辺の建築物は見えない。



1-7 松並木から北への眺望
：赤山禅院の屋根が見える。



1-8 松並木から西への眺望
：近隣の住宅や農地が見える。



1-9 中離宮前から西への眺望
：標高も低くなるが、木立も低く、近隣の建築物の屋根が見える。



1-10 松並木から南南西への眺望
：木立により周辺の建築物等は見えない。

■ 2 修学院離宮周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・ 修学院離宮に通じる道沿いに農家の名残をとどめる家が点在し、現在も農地が広がっているところがある。
- ・ 離宮背面に比叡山を望み、離宮近くには古い石垣が多くみられる。



2-1 離宮北から東への眺望
：離宮の敷地手前に古い石垣が見える。



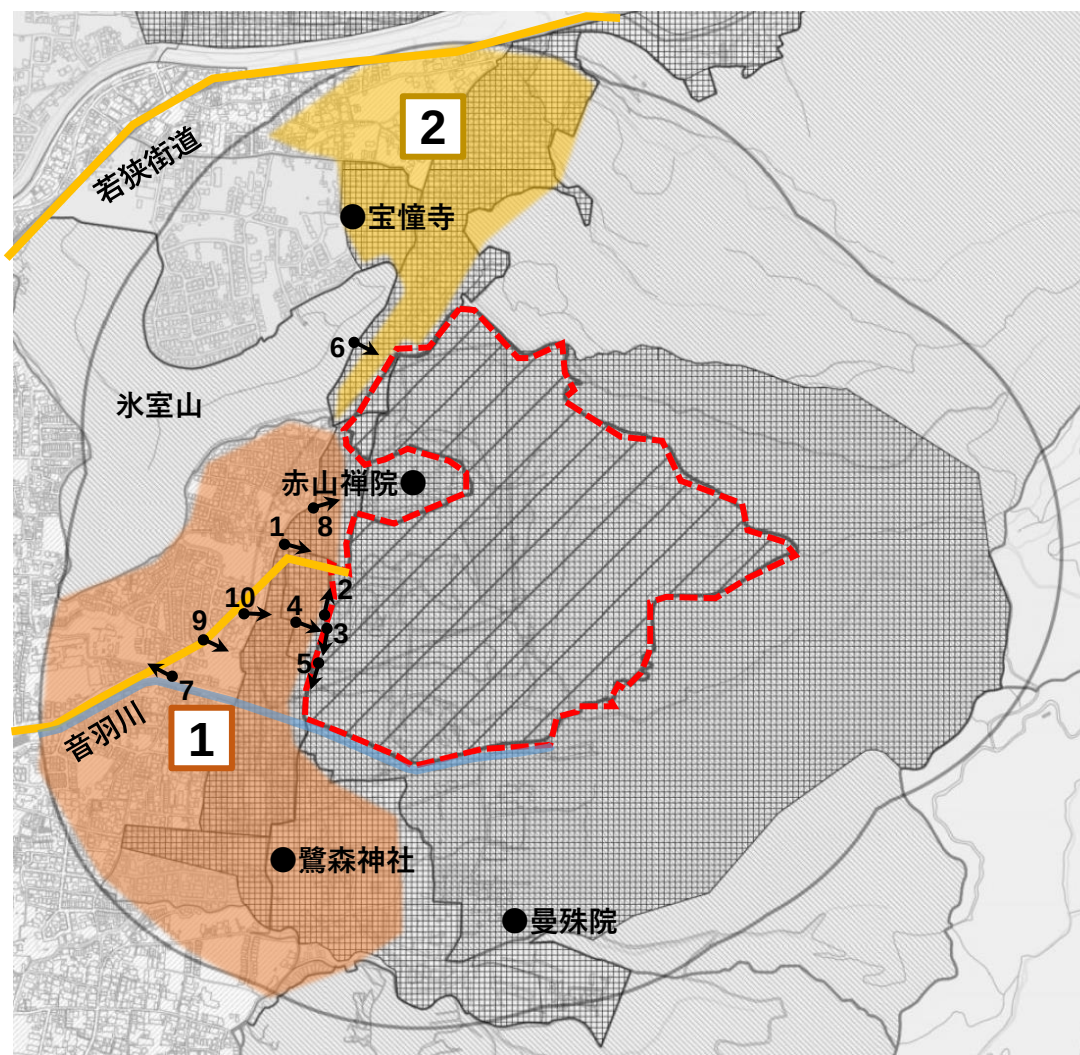
2-2 修学院離宮前西側から北への眺望
：離宮の志垣、生垣に面して、比較的新しい住宅が並ぶ。



2-3 修学院離宮正面から南への眺望
：離宮敷地前は石畳となっている。



2-4 修学院離宮正面
：離宮正面入り口は通りも広がっている。



--- 視点場（境内） ——— 主な通り



2-5 修学院離宮前禅華院
：禅華院の門が沿道景観を特徴づけている。



2-6 檜峠町の町並み
：生垣のある大きな敷地の住宅が立ち並ぶ。



2-7 音羽川修学院離宮道交差部から北西への眺望
：川沿いに低層の町並みが見える。



2-8 赤山禅院の参道
：生垣が連続している。

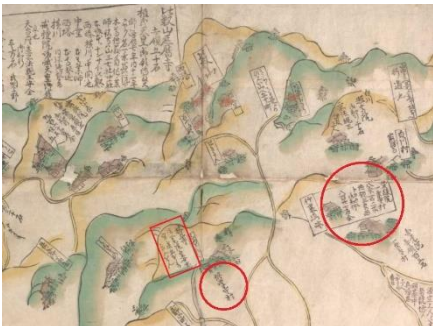


2-9 修学院離宮道沿い農地から東への眺望
：修学院離宮道沿いには広く農地が残る。



2-10 鷲森神社御旅所前から修学院離宮への眺望
：離宮道沿道には、和風意匠の住宅が立ち並ぶ。

3 修学院離宮周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 修学院離宮西側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・修学院の地名は、戦国期まで存在した天台宗修学院(修学寺)に由来し、一乗寺の地名は近江国園城寺(三井寺)末寺一乗寺(南北朝期に廃寺)に由来する。 ・江戸期から明治前期までの村名は修学院村、一乗寺村である。修学院村には鷺森神社・赤山禅院・林丘寺・雲母寺、一乗寺村には八大神社・曼殊院・狸谷不動院・詩仙堂など、多くの寺社がある。 ・両村とも農耕が盛んで近郊農村地帯であり、昭和初期から全国屈指の促成園芸地帯として発展した。 ・昭和17年(1942)には修学院の地内に約600戸の勤労者対象の「住宅営団」が建設されるなど、戦後に宅地化が進行した。			
	イ 町並みの特徴 ・白川通から修学院離宮道を曲がると正面に比叡山が見える。音羽川沿いに東へ向かうと左手に修学院小学校が見えてくる。 ・周辺は農家風の住宅が多く残っている反面、新しい住宅も多い。山裾に位置することから高低差があり、石垣も所々に見られる。昔ながらの細い道も多くある。離宮の周囲の石垣や生垣が、沿道の和風住宅とともに緑豊かな沿道景観を形成している。 ・曼殊院に向かう道沿いには商店(湯豆腐屋・漬物・喫茶店)が立ち並び、蔵や農家の名残がある家も多い。 ・鷺森神社は住宅地の中に位置し、東山を背景とし、豊かな緑地を形成している。雲母坂は修学院から比叡山延暦寺へ通ずる主要道として利用されていた。 文化財等：曼殊院(本堂、書院、庫裏)、曼殊院書院庭園(名勝)、詩仙堂(史跡)			3-1 京大繪圖 新撰増補 (貞享3年(1686)) :修学院村・一乗寺村の表記が見られる。 
ウ 景観形成方針	風致地区	修学院特別修景地域	山ろく型建造物修景地区	3-2 離宮周辺の農家住宅  3-3 曼殊院に向かう町並み
	修学院離宮門前集落については伝統的な集落景観の維持を図り、鷺森神社参道については参道景観の整備を図る。	修学院地域では趣のある周辺環境の保全を図る。鷺森神社参道では、緑豊かな参道景観を保全する。	山々の内縁部には戸建て住宅を中心とした良好な住宅地が広がっており、これを維持増進する。	
エ 求める配慮事項	建築物は日本瓦ぶき和風外観とし、植栽、生垣、和風門、和風塀のいずれかを設ける。鷺森神社参道では、樹木の保全や植栽帯を設け、建築物は和風外観とする。	歴史的資産等の周辺において、勾配屋根を設け、壁面の色彩を暖色系の自然素材色とするなど和風基調の町並み景観とする。	 3-4 鷺森神社の参道の町並み	

2 修学院離宮北側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・高野の地名は、平安京遷都の後、狩野となり、鷹野と呼ばれたことに由来する。 ・高野村は江戸期から明治前期までの村名であり、当地には御蔭神社、崇道神社、三宅八幡宮、蓮華寺、宝幢寺など寺社が多い。 ・高野川と若狭街道が村内を横切っており、豊富な水量と物流に恵まれていた。 ・大正14年(1925)に京都電燈叡山本線（現叡山電鉄叡山本線）が出町柳ー八瀬間で開業、三宅八幡駅が開設される。同年に終点八瀬駅から比叡山山頂付近までケーブルカーが開通し、登山者や延暦寺参詣で賑わうようになる。 ・昭和40年代に区画整理事業開始と白川通の延長が行われ、宅地化が進んだ。			
	3-5 京都都市計画圖 京都都市計画街路並土地區劃整理圖(昭和13年(1938)) ：「高野」「修学院」等の表記がみられる。			
イ 町並みの特徴	・氷室山、比叡山の間にあるエリアで緑豊かで坂道も多い。桧峠児童公園より北上すると比較的大きな住宅が並んでいる。庭木なども多く、周辺の山などの自然と良く調和している。 ・赤山禅院周辺にも古い石垣が多くみられ、多くの農地が残っている。上高野周辺は農業用水として利用されている水量が多い小川が美しい景観を形成している。住宅は庭付きの伝統的な形式が残っており、農家風住宅以外の民家も比較的大きな敷地に植栽が多くあり、東山を背景とした緑豊かな住宅地となっている。 文化財等：栖賢寺			
ウ 景観形成方針	風致地区	檜峠特別修景地域	山ろく型建造物修景地区	
	市街地からの眺望の背景である比叡山の自然景観の保全や修学院横山に抱かれた住宅地の眺望景観に配慮する。	檜峠地域では、緑豊かな住宅街の和風景観を保全する。	山々の内縁部には戸建て住宅を中心とした良好な住宅地が広がっており、これを維持増進する。	
エ 求める配慮事項		既存の敷地規模並びに道路に面する和風様式の門、塀及び生垣を維持することとし、建築物は原則として日本瓦ぶき和風外観とする。	歴史的資産等の周辺において、勾配屋根を設け、壁面の色彩を暖色系の自然素材色とするなど和風基調の町並み景観とする。	
				 3-6 赤山禅院周辺の農家風住宅
				 3-7 桧峠児童公園周辺には大きな住宅が立ち並ぶ

3-1 「京大繪圖 新撰増補」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-5 「京都都市計畫圖 京都都市計 畫街路並土地區劃整理圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）